

(別紙2)

## 内部質保証シート（附置施設・委員会等用）

A	例年を上回る良い状況
B	通常の範囲内
C	要経過観察
D	改善を要する

2023年度の重点目標（学長／内部質保証推進委員会）
<p>①第3期認証評価受審時の振り返りの中で、第6次中期計画と内部質保証システムの2つのPDCAサイクルが回っている状態であり、「内部質保証に関する取組」と「中期計画」とのPDCAの関連が見えにくいといった課題があった。</p> <p><b>2023年度は中期経営計画と内部質保証に係る自己点検・評価のPDCAサイクル一体化し、中期経営計画の進捗状況を確認することで自己点検・評価を行う。</b></p> <p>②その他、各部局等において可及的速やかに処理しなければならない改善課題、外部評価委員会で指摘された改善課題、内部質保証に係る各種方針の実現、新規制度等の実効性や有効性の検証などの事項について、あらゆる課題を全てPDCAサイクルに乗せる必要はなく、重要性や年度内の解決可能性などを考慮して取り組むべき課題を適切に取捨選択するものとする。</p>

		～5月末まで			6月 第3週		7月～翌年3月			翌年6月 第3週			
部局名	委員長議長	自己点検・評価 (Check)		改善計画・アクションプラン (Plan)			状況計画の取組状況 (Do)			取組状況の評価(Check)			
		評価	概要	改善課題 (Action)	課題/改善目標	期 限	方法・手順	内部質保証推進組織による所見または提言、助言、指示等	具体的な取組状況	取組の成果	進捗状況	内部質保証推進組織による所見	公表状況
大学評議会	原田	A	執行役会で審議された大学の運営及び教学に関する重要事項を検討し、各教授会に報告するなど通常業務を円滑に遂行した。	審議の時間短縮と審議事項の全教員に向けた正確な伝達	時間の管理を優先した円滑な議事の進行	2024年3月	審議事項と報告事項の精選と大学評議会運営の効率化	委員会に置いて承認	会議運営については、集中的な議論と正確な判断を行うための時間のコントロールに注力する。	議題にもよるが2時間程度の長さ収まる会議運営を達成している	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
執行役会	原田	B	大学の最高意思決定機関として通常業務を円滑に遂行したが、時に処理すべき議題が多様で過大な負担になることがある。	持ち込まれる案件について、提案母体の関係部局での緻密な議論を求め、負担を軽減するように依頼する	よろず相談にならないように優先順位を意識したアジェンダの作成を行う。	2024年3月	審議事項と報告事項の精選と執行役会運営の効率化	委員会に置いて承認	会議運営については、集中的な議論と正確な判断を行うための時間のコントロールに注力する。	おおよそ2時間程度の長さで収束している。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
自己点検・評価委員会	原田	B	教育研究等の各部局の活動状況の評価と中期経営計画の達成度を評価するなど、通常業務を円滑に遂行した。	2022年の受審結果で改善課題とされた内部質保証について具体的な改善課題を抽出した。	2023年度は自己点検・評価シートを作成し評価項目に対して機関、研究科、両学部記入を依頼した。	2023年度内	024年度内に作成する年次報告書に向けた自己点検・評価シートの完成。	委員会に置いて承認	2023年度自己点検・評価シート（統合版）の記入。	記入は終了。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
危機管理委員会	原田	A	23年度は多くの事故やハラスメントに関する案件に対応するなど、通常業務を円滑に遂行した。	案件に応じて危機対策本部を立ち上げ、迅速な対応を実施した。	違法薬物に対する危機対策本部は4回の会議を行い、意識調査、HPの特設ページの開設、相談窓口の検討、警察に夜講習会、啓発ポスターの募集を行った。	2023年度内	案件に応じて関係各所においてしかるべき処分を施すとともに、再発の防止に努力した。	委員会に置いて承認	違法薬物については啓発ポスターを学内に掲示するとともに、教員によるハラスメントや指導問題に関しては当事者に対して厳重注意を行うなど、しかるべき対応を施して再発防止に努めている。	違法薬物に関してはある程度の効力があると推察される。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
IR委員会	中房	B	(1)ファクトブック2022を作成し、HPに公表した。 (2)教育学部でPROGテストを実施した。	(1)定例の業務の安定的遂行 (2)IR活動の活性化	(1)ファクトブック2023の作成と公表 (2)両学部でPROGテストの実施 (3)授業評価結果の分析	(1)2023年5月末 (2)2023年前期 (3)2023年度内	(1)学長室IR担当で作成 (2)㈱リアセックにより実施と結果説明会 (3)IR委員会で分析	委員会において承認	(1)予定通りファクトブック2023を作成してHPに公表した。 (2)予定通りテストを実施し、説明会を行った。	結果の活用という点では、なお不十分である。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
全学予算委員会	原田	B	大学における予算配分について、これまで懸案事項であった教研費の見直しを提案した。ただし、就学支援金の獲得のために赤字を回避する必要が生じ、全体的に8%のカットとなったため、この議論は宙に浮いたままであった。	学園全体の予算が決まらないと次年度予算が組めないため、前向きな改革ができないというジレンマを抱えている。	法人とのコミュニケーションを密にとり、施設の改修も視野に入れつつ大学の未来を考える必要がある。	2024年3月	学園全体の予算戦略が厳しい状況の中、大学のブランド力を落とさぬよう、全体を俯瞰したエッジの効いた配分に努力する	委員会に置いて承認	大学全体の予算が削らるという予測できない事態が生じたため、教研費の見直しについては一時凍結とする。今後は、次年度の予算配分状況を見ながら議論を進めて行く予定である。	厳しい予算状況の中次年度の予算を決めることができた。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

全学FD委員会	中房	B	2022年度まで活動が低調であったが、2023年度はFD研修会を計6回開催するなど、活動を大きく改善することができた。	FD活動が将来的にも安定的に行われるための基礎をつくる (1)定例の活動の円滑な実行 (2)FD活動のさらなる活性化策の実行	(1)FD活動を推進する人材の養成 (2)DP見直し (3)全学FD研修会の開催 (4)授業デザインの改善 (5)成績評価の改善 (6)委員会規程の改正 (7)FDの全国的動向の摂取	(1)2023年度内 (2)2023年度内 (3)2023年度内 (4)2023年度内 (5)2024年度末 (6)2023年度内 (7)2023年度内	(1)FD活動を推進する人材の養成講座の開催 (2)DP見直しのためのワークショップの開催(複数回/yr) (3)全学FD研修会の開催(1回以上/yr) (4)授業デザインに役立つリンク集の作成(後期)	委員会において承認	(1)外部講師を招いて大阪体育大学FD担当者研修を初めて開催した(体育学部4名、教育学部4名、職員4名参加) (2)体育学部各コース6回、教育学部1回、教務補佐1回のワークショップを開催 (3)当委員会主催の研修会を2回、共催の研修会を1回開催 (4)「授業デザインに役立つリンク集	「FD活動が将来的に安定的に行われるための基礎をつくる」という点では、なお成果は十分に表れていない。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
研究公正委員会	植木	B	通常業務を円滑に遂行した。	学内の研究者から遺伝子組換え動物実験の実施の要望が出たため、遺伝子組換え実験規程を整備する必要がある。	動物実験部会に「遺伝子組換え実験規程」の検討を依頼し委員会で審議する。	2023年9月末	他大学の規程等を参考に庶務部の研究支援担当が素案を作成し、動物実験部会で検討したものを研究公正委員会で審議決定する。	委員会において承認	動物実験部会で審議し承認されたものを上部組織である研究公正委員会で承認した。	今後、P1レベルの遺伝子組換え動物実験が学内で可能となる	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
研究推進委員会	石川(昌)							委員会において承認  なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する				同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
学生委員会	高本							委員会において承認  なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する				同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
全学入試委員会	植木	A	通常業務を円滑に遂行し、志願者増のための入試制度改革と募集活動を遂行した。	志願者減に歯止めをかけ、本学の教育方針に合致した受験生を確保する。	指定校推薦枠の拡大や受験生のニーズに合わせた入試制度改革ならびに入試広報と学生募集活動の積極的な推進はかる。	2023年5月末	過去の志願者や入学者の実績のある高校や依頼のある高校の指定校枠拡大を検討する。受験者の受験に配慮した受験科目の設定や入試日程を検討する。	委員会において承認	指定校枠の拡大をはかるとともに、該当者の評定平均値を引き下げた。また学校推薦型入試の受験科目を見直すことで、より受験しやすい入試制度に改定した。	総合型選抜ならびに指定校推薦、学校推薦の年内入試における志願者が大幅に増加し、年内で募集定員を超える入学予定者を確保した。さらに年明けの一般入試においても例年並みの志願者を確保したことで、ここ数年減少していた志願者が増加に転じた。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
全学教務委員会	池島							委員会において承認  なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する				同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

競技力向上委員会	松田							委員会において承認 なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する			同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
広報・ブランディング委員会	藤本							委員会において承認 なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する			同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
全学教職課程委員会	中尾	A	教職に関する専門業務の円滑化を図るために、情報共有の場として委員会の開催数を増した。	学生のニーズや試験に適した「教員採用試験対策講座」の改善。「教員育成協議会」に関する検討。	委員会の開催回数増。講座については検討チームの開催し課題の明確化。ニーズの把握。育成協議会については実情の把握。	2024年3月末	講座については検討チームの編成と協議やアンケート調査の実施。育成協議会については自治体との協議を実施。	委員会において承認	委員会を年間5回実施。推薦や試験の早期化、大学推薦の現状について情報共有。講座は、検討チームより調査結果に基づく改善方法の提案。協議会は、中期的な展望について説明。	大学推薦選考会（第一次）の早期実施。対策講座のテキストなどの改善。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	
施設検討委員会	神崎	A	施設の充実や改修を学園との連携で円滑に進めていく。	新カリに伴う教室の改修工事を年度内に行う。軽微な施設の補修等は随時庶務部を窓口として実施することを確認した。	改修する教室を多用途に使用できるようにラーニングcommonsとの一体化をすることになった。	2024年3月	デジタルスポーツ論TFとの連携で実施	委員会、大学評議会にて承認	ラーニングcommons×デジタルスクウェアとして多用途施設として実施することが大学評議会にて承認された。	スポーツ科学を推進する施設として今後活用が期待できる	完了	2024年度の予算削減により特別予算（施設設備）での必要な施策の運用が難しい状況である。部署ごとでできることを実行していく必要がある。	
外部評価委員会	原田	A	自己点検・評価活動と内部質保証の客観性と公平性を担保するために外部の評価と提言を行う。	対面で参加できずオンライン対応や書面対応になった委員もあり、十分なフィードバック体制が組み込まなかったという課題がある。	柔軟的な日程調整と順次能力と意欲の高い委員に対する依頼を行う。	2024年3月	アンテナを張り、役職や年齢にこだわらない委員の選定に努める。	委員会において承認	全体のバランスを考えながら、任期の切れた委員について人選を進めている。	I Rと内部質保証に詳しい人物のリストアップ	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
ハラスメントの防止等専門委員会	神崎	B	ハラスメントを起こさないためと取り組みを実施するとともに、事案が生じた場合には迅速に対応できるようにする。	ハラスメントについての今日的課題について教職員が理解する必要がある。	研修会の実施により啓発の機会を設ける。	2024年3月	UNIVASから研修会を教員に案内し実施した。	委員会において承認	学生から教員のハラスメントの訴えが3件発生し、都度、個人情報をの保護をしながら当該教員に対し指導するとともに、全教職員に事案の説明と注意喚起を行った。保護者対応の問題が増えてきている状況で、あらかじめ事案の発生を未然に防ぐ教職員研修を実施する必要がある。		検討中	教職員研修を実施について、引き続き実施に向けた取り組みを行う必要性がある。今後の課題として対応することが求められる。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
人権教育委員会	三島							委員会において承認 なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する			同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	

個人情報保護委員会	植木	B	通常業務を円滑に遂行した。	情報処理センター委員会と連携し、情報セキュリティの向上に資する継続的な取り組み	情報処理センター委員会と連携し、情報セキュリティの向上に資する具体的な取り組みが継続的に行われるよう規定等の見直しを行うと共に、具体的な取り組みの検討を行う。	2024年3月末	情報処理センター委員会と連携	委員会において承認	情報処理センター委員会より、大学ICT設備の整備についての中期計画の項目として「情報セキュリティ関係」の欄を備えた。また、「令和6年度からの大学認証システムの2段階認証化」計画を破棄し、新たに「できる限り早期のパスワードレス認証への対応」を進めることとし（令和5年度第2回情報処理センター委員会）、特別予算の申請を実施した（令和5年度第3回情報処理センター委員会）。現在、本件については、申請予算の採否の決定待ちの段階であるさらに、「大阪体育大学情報漏えい防止指針」の法人規程化（および大学既存規程の廃止）についても提案を行い、現在、その完了待ちの状態にある。	情報処理センター委員会より、 1. 大学ICT設備整備についての中期計画に「情報セキュリティ」の欄を設けることで継続的な見直しを常に行えるようにした。 2. 令和6年度からのパスワードレス認証の実現を目指し特別予算申請を実施した。 3. 大阪体育大学情報漏えい指針の法人規程への移行を提案した。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
障がい学生支援委員会	竹内	B	通常業務を円滑に遂行した。	配慮の必要な学生に対する追試験等の提出方法に関する検討	障がいの特性に応じて、1度の診断書			委員会において承認  なお改善計画について記入するよう依頼する				同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
学生懲戒諮問委員会	池島	A	通常業務だけでなく緊急業務も円滑に遂行した	懲戒対象となる行為の発覚から、懲戒処分内容の通達迄の期間短縮とルール整備	懲戒に関する基準を改正する	2023年9月末	非遵行為の種類により、戒告処分に至らない場合を認める標準を作成する	委員会において承認	懲戒諮問委員会案を作成し大学評議会、各教授会に提案し認められた	迷惑駐車、無断駐車等の非遵行為について、自動車・自動二輪車・自転車の種別や友人宅への駐車等状況を総合的に検討し、懲戒に至らない判断を行うことを可能とするため、メイエア区駐車、無断駐車等の懲戒の標準に「ただし、状況により懲戒に至らない場合がある」の文言を追加した	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
キャリア支援委員会	伊原	B	通常業務を円滑に遂行した。	キャリア支援センターと連携した就職支援の一層の充実	キャリア支援センターの取り組みを委員会としても把握し、キャリアフェスタ（8月と2月）の充実を図る。	2024年3月	委員会で共通理解を行い、キャリアフェスタを開催する。	教授会において報告。	キャリア支援センターを中心に学生のキャリア支援は継続的に実施した。キャリアフェスタ（8月と2月）は対面にて実施。	就職率、公務員と教員の合格者を安定的に確保できている。全学対象のキャリアフェスタは高い評価であった。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
内部質保証推進委員会	神崎	A	内部質保証を推進する仕組みづくりと各部署でのPDCAサイクルを回す取り組みを支援する。	内部質保証に関する取り組みと中期計画とのPDCAの関連が見えにくいという課題がある。	中期計画の内容が多岐にわたりその項目も多いため、内容を精査して重点目標を設定する必要がある。	2024年6月末	中期経営計画と内部質保証にかかわる自己点検・評価のPDCAサイクルを一体化し、中期計画の進捗状況を確認することで自己点検・評価を行う必要がある。	執行会で確認し、大学評議会において承認	中期計画を基に中期経営計画を作成した。自己点検・評価シートを基に点検を行うとともに、教育質保証とエンロールマネジメントについては、点検しやすいように項目数を統合し、ファクトブックを出発点とした自己点検評価を行った。	中期経営計画と内部質保証にかかわる自己点検・評価のPDCAサイクルを一体化したこと評価がしやすくなった。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
図書館委員会	前島	A	外国雑誌の該当タイトルの冊子体から電子ジャーナルへの切り替え（2024年更新時）	外国雑誌について、現在も多くのタイトルを冊子体で購読しているが、図書館外からのアクセス等、利便性向上等の観点からも電子ジャーナルへの切り替えを検討する必要がある。また、冊子体より電子ジャーナルの方が安価である場合が多いことから、外国雑誌価格の高騰と円安についての対策にも備えたい。	2024年1月更新の外国雑誌について、冊子体より電子ジャーナルの方が安価な場合は電子ジャーナルに切り替える。	2023年10月末	業者からの2024年1月更新の外国雑誌の冊子体と電子ジャーナル価格の見積もりにより、電子ジャーナルに切り替えるタイトルを抽出する。切り替えタイトルについて、図書館委員会の議を経て、電子ジャーナルにより更新する。	委員会において承認	10月18日開催の図書館委員会において、該当の外国雑誌（61点）を冊子体から電子ジャーナルへ切り替えることが承認された。	外国雑誌61点について、2024年1月からの更新時に、冊子体より電子ジャーナルに切り替えることで、利便性が向上した	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ局運営審議会	神崎	B	スポーツ局の重要事項を審議する機関であり、特に事業計画・事業報告と予算・決算について審議する。	DASHプロジェクト、特にDASHアスリートのサポートのブラッシュアップ	DASHアスリートに対するスポーツ科学サポートについて、より活用できるようにする。	2024年3月末	スポーツ局執行会及びスポーツ科学センター委員会で審議し決定	大学評議会にて承認	次年度4月に実施するサポートミーティングでDASHアスリートに対してスポーツ科学サポートについて概要を説明することとなった。	今後更なるDASHアスリートに対するスポーツ科学サポートの活用が期待される。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

スポーツ局執行会	梅林	B	スポーツ局所管事項の抱える課題について定期的に会議を開き審議する。	運動クラブの金銭面や選手獲得、部則などのガバナンス及び学内イベント・地域貢献の更なるサポートについて、決定事項が多くあり情報の一元化が課題である。	整理したクラブサポートに関する決定事項などをまとめた「クラブガバナンスの手引き(第2版)」を発行する。	2024年3月末	①執行会で概要提示 ②関連教員・部署に執筆及び内容の確認を依頼 ③執行会での確認・部長監督会議で案を提示 ④執行会で決定	委員会において承認	予定通り実施し発行した。	クラブに対する本学のガバナンスやサポートを集約することが出来た。今後各クラブで活用されることが想定される。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
社会貢献センター運営審議会	中山	B	センター業務の円滑な遂行に関して審議する。			2025年3月末		委員会において承認  なお改善課題・改善計画について記入するよう依頼する				同運営審議会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
社会貢献センター委員会	中山	B	センター事業部会、地域交流部会、高大連携部会の業務内容の確認および分担を明確化する。	各部会の業務について担当者間での共通認識の醸成。	各部会の業務について担当者間での認識の相違があり、それらを調整する必要がある、複数回にわたり非公式の打ち合わせを実施した。	2025年3月末	定期的な委員会の開催と規程の再確認を実施する。	委員会において承認				同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
情報処理センター委員会	堤	B	ラーニング・commons新設に伴うセンター窓口業務の整理	ラーニング・commons新設に伴うセンター窓口業務の整理（前年度からの継続）	積み残しの課題となっている「授業資料無償印刷サービスの在り方」について、センター窓口と学習支援室窓口の役割を明確化する。	2024年3月末	学習支援室運営委員会と調整しながら、特に学生問い合わせへの対応について、センター窓口と学習支援室窓口の役割を明確化する。	委員会において承認	授業資料無償印刷サービスについては、 1. 本サービスの管理・運営については、ラーニングcommonsを管理する「学習支援室」へ移管する 2. 本サービスに利用するラーニングcommons設置の複合機の管理と技術支援については引き続き情報処理センターが実施する 3. 実際の移管作業は本年度中に情報処理センターと学習支援室が協力して実施することとなった。また、情報処理センターより2024年4月24日付で、移管作業が完了したとの報告があった。	移管を速やかに実施することで、令和5年度についても前期授業から授業資料無償印刷サービスを学生に提供できた。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
		B		大学ICT設備の整備についての中期計画が明確化されていない。	大学ICT設備の整備についての中期計画の公表	2024年3月末	情報処理センターが現在運用中のICT設備の運用終了期限の調査結果を基に、その更新時期、方針について委員会で審議し、なるべく見やすい形でその全体を公表する。	委員会において承認	令和5年度第2回情報処理センター委員会にて大学ICT設備整備についての中期計画を策定すると共に、その公表方法を定めた。	本中期計画を大学ポータルページに公表すると共にその継続的な見直しを実施した。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
		B	情報セキュリティの向上に資する継続的な取り組みが行われていない。	情報セキュリティの向上に資する具体的な取り組みが継続的に行われるよう規定等の見直しを行うと共に、具体的な取り組みの検討を行う。	2024年3月末	個人情報保護委員会と連携しながら、 1. 規程の見直し 2. 情報セキュリティの向上に資する具体的な取り組み内容の検討 3. 必要な予算の確保を実施する。	委員会において承認	大学ICT設備の整備についての中期計画の項目として「情報セキュリティ関係」の欄を備けた。また、「令和6年度からの大学認証システムの2段階認証化」計画を破棄し、新たに「できる限り早期のパスワードレス認証への対応」を進めることとし（令和5年度第2回情報処理センター委員会）、特別予算の申請を実施した（令和5年度第3回情報処理センター委員会）。現在、本件については、申請予算の採否の決定待ちの段階である。さらに、「大阪体育大学情報漏えい防止指針」の法人規程化（および大学既存規程の廃止）についても提案を行い、現在、その完了待ちの状態にある。	1. 大学ICT設備整備についての中期計画に「情報セキュリティ」の欄を設けることで継続的な見直しを常に行えるようにした。 2. 令和6年度からのパスワードレス認証の実現を目指し特別予算申請を実施した。 3. 大阪体育大学情報漏えい指針の法人規程化への移行を提案した。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	

スポーツ科学センター 運営審議会	菅生						委員会において承認  なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する			同センターに対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
スポーツ科学センター 委員会	菅生						委員会において承認  なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する			同センターに対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
国際交流センター委員会	前島						委員会において承認  なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する			同センターに対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
学習支援室運営委員会	長尾	B	昨年度に引き続きラーニング・commons新設に伴う学習支援室業務の整理を行った。過去2年間にわたる学習支援室主任の不在によって業務に様々な支障と混乱があったが、4月1日に学習支援室主任とマネージャーが着任し、これらの解決をはかった。その結果、例年より時期は遅れたが、2月には体育学部・教育学部の両教授会で学習支援室主任による業務の活動報告を行うことを出来た。また、入学前教育については特定講師である学習支援室主任が学会発表を行った。	ラーニング・commons新設に伴って発生した新たな学習支援室業務、コロナ禍と学習支援室主任不在期に混乱した業務の整理（前年度からの継続）	1. 学習支援室主任、マネージャー、教務補佐、チューター、ピアチューターの業務内容を整理し、担当業務を確定する。 2. 情報処理センター、キャリア支援センター、スポーツ局、教学課、教養教育センターと連携して行っている業務を見直し、担当者や担当する業務を整理・確認する。	2024年3月末	1. 情報処理センター委員会と調整しながら、部屋や設備（授業資料無償印刷サービス用の印刷機など）の管理方法を確定する。 2. 公務員試験対策講座に関連する業務内容を整理する。 3. スポーツ局（主に部活動に所属している学生）、教学課（主に部活動に所属していない学生）、教養教育センター（1年生必修科目の受講者）と情報交換しながら、効果的な支援方法を検討する。	委員会において承認	1. 10月1日より旧情報処理実習室Bの管理が学習支援室に移管され、ラーニングcommonsとしての利用を始めた。ラーニングcommonsに設置されている授業資料無償印刷サービス用の印刷機の管理運営も学習支援室が行うこととなり、マネージャーと教務補佐で対応する体制とした。 2. 公務員試験対策講座の具体的な実施方法について、学習支援室主任とキャリア支援センターの担当者で協議した。対策講座の講師費用をキャリア支援センターで予算化し、学習支援室チューターが学習支援室の業務時間外に担当した。 3. 学習支援室主任とスポーツ局、教学課、教養教育センターらが打ち合わせを行い、学習に関して問題を抱える学生に対する支援の具体的な方法について検討した。スポーツ局、教学課、教養教育センターは問題を抱える学生の早期発見と呼び出しに協力し、学習支援室主任、マネージャー、教務補佐、チューター、ピアチューターは学習支援活動に従事した。	1. 情報処理センターからの設備の移管は学生サービスを停滞させることなく実施できた。 2. 公務員試験対策講座の実施主体がキャリア支援センターであることを確認し、業務範囲を明確化したことにより責任をもって運営できる体制となった。 3. スポーツ局と教学課による学生の呼び出し、面接が一元化し、学生の混乱が解消された。学習支援室主任を中心に各部署からの情報が共有できるようになった。 4. 学習支援室運営委員会を経て、体育学部・教育学部の2月の教授会で学習支援室主任が活動報告を行った。 5. 入学前教育に関する実践報告を行った。(Miho Matoba, "Report on Pre-Enrollment Education Using Commons Sites and...")	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
学生相談室運営審議会	池島	B	運営審議会を年に一度開催し、活動の振り返りを行ったうえで次年度の年次計画を策定し、実施している	①競技力向上を目指した学生への支援体制の整備、②学生相談に課題を抱える教職員への対応、③カウンセラーおよび相談員の資質向上	①はスポーツ科学センターと連携する体制づくりに着手する、②は教育セミナーを開催する、③は事例検討会を実施する	2024年3月末	①はスポーツ科学センター委員会に提案する、②・③はカウンセラーに依頼し、日程調整のうえで9月に開催する	委員会において承認	②高橋幸治カウンセラーに打診し9月19日に教職員向け教育セミナーを開催予定とし、準備を進める	②高橋幸治先生（大阪公立大学教授）による教職員を対象とした教育セミナー「大学での学生・保護者対応を考えるー臨床心理学的視点をまじえて」を2月27日に開催した。事例に対しどのように対応すべきか考えグループディスカッションしたのち臨床心理学的視点に触れることで学生・保護者対応について視野を広げ、新たな発見につなげることができた。	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

運動部活動改革プロジェクト	神崎	B	「運動部活動指導認定プログラム」の円滑な運営と定員確保	①円滑な運営に向けた組織づくり ②受講生の募集・広報活動	①はプロジェクトメンバーの権限と責任を定めること、②はリーフレット作成など	2024年3月末	①はプロジェクトメンバーの新たな選定と組織化を評議会に提案すること、②はリーフレットを作成し全国の教育委員会へ送付すること	委員会において承認	①は第3回大学評議会（2023.6.29）で承認された。 ②は2023年12月に各教育委員会に送付を完了し、また各教員が参画する自治体が実施する協議会でPRするなど積極的に広報を実施した。	プロジェクトメンバーで定期的な会議を開き、必要に応じ大学評議会での審議・報告を実施するなど円滑な運営を実施し、令和5年度は定員を上回る受講生を確保することが出来た。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
---------------	----	---	-----------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	----------	---	-----------	---	--	-----	--------------------------------	-----------------------------

(別紙2)

内部質保証シート（附置施設・委員会等用）

- A 例年を上回る良い状況
- B 進捗の総観内
- C 要経過観察
- D 改善を要する

**2023年度の重点目標（学長／内部質保証推進委員会）**

①第3期認証評価受審時の振り返りの中で、第6次中期計画と内部質保証システムの2つのPDCAサイクルが回っている状態であり、「内部質保証に関する取組」と「中期計画」とのPDCAの関連が見えにくいといった課題があった。  
**2023年度は中期経営計画と内部質保証に係る自己点検・評価のPDCAサイクル一体化し、中期経営計画の進捗状況を確認することで自己点検・評価を行う。**

②その他、各部署等において可及的速やかに処理しなければならない改善課題、外部評価委員会で指摘された改善課題、内部質保証に係る各種方針の実現、新規制度等の実効性や有効性の検証などの事項について、あらゆる課題を全てPDCAサイクルに乗せる必要はなく、重要性や年度内の解決可能性などを考慮して取り組むべき課題を適切に取捨選択するものとする。

部署名	委員長/議長	自己点検・評価 (Check)		改善課題 (Action)		改善計画・アクションプラン (Plan)		6月 第3週		7月～翌年3月		翌年6月 第3週		
		評価	概略	課題/改善目標	期 限	方法・手段	内部質保証推進組織による所見または指摘、助言、指示等	状況計画の取組状況 (Do)	取組の成果	進捗状況	内部質保証推進組織による所見	公表状況		
研究科委員会（研究科会議）	浜田	B	大学院研究科会議は規程に則り、年1回の定例と、年3回の入試判定、年1回の修了判定の臨時で年3回開催し、適宜必要な議題について審議・報告が行われている。	体育学部教授会と向日開催が年間で5回あり、開始時期の遅れや終了時間が遅くなり教員の負担が大きいため、他の会議体と開催日時が重複した月が2回あった。	次年度は入試など特別な事項が無い限り、教授会の登壇木曜日に実施し、定例通り開始し、効果的な運用に努める。	2024年3月	他の会議と重複しないよう関連部署と事前調整、確認を行う。	委員会において承認	委員会において承認	研究科長と大学院事務室でスケジュール案を作成し、庶務部や入試部など事前調整を実施（3月1日に実施済）	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
博士委員会	下河内	C	博士委員会は博士後期課程の講義および論文指導担当委員で構成され、選考委員会を開催し、(1)学位(博士)論文受理の可否について、その審査に関する事項、(2)博士論文審査及び最終試験・学力試験の判定に関する事項、(3)博士の学位授与認定の可否に関する事項、(4)その他の必要事項に関して審議を行っている。	昨年度、博士論文の申請の取り消しが1件あったことから、博士論文の質の向上と、指導体制のさらなる充実化を図るため、博士の学位授与認定に対する投票において、主席、副席以外の委員構成メンバーが、何に対して評価を行い可否の投票を行うかについて議論が行われ、その結果として不明確な点があるため、明確にする必要がある。	博士論文の質の向上につながる指導体制の充実化及び研究計画段階での指導体制やチェック体制の強化を行う。また、学位授与認定に対する評価基準を明確にする。	2024年3月	委員会において検討を進め、議決事項を申し合わせ事項を作成・運用を行う。	委員会において承認	委員会において承認	委員会において、博士後期課程の大学院生に所属する論文審査は大学院生が実施し、レポートをしていくことを確認した。また、学位論文のデータ収集を行う前に研究計画発表会を行い、その際に主席、副席が研究計画をチェックすることになった。また、学位論文提出に必要な資料を博士後期課程への投稿に際しては、主席、副席が投稿先の確認および助言を行い、最終確認や十分な審査体制がない確認に接続しないようにチェックする体制を強化することになった。審査結果に関しては、結果における詳細内容を博士論文発表会の発表内容、質疑応答の内容、審査結果のみとするようになった。また、審査投票については2023年度から匿名投票とし、不合格または白票を投じた教員は、その理由を説明することになった。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
研究教育委員会	高本							委員会において承認					同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
人事委員会	浜田	C	博士前期課程及び博士後期課程の担当を希望する申請者について、選考委員会を設置し、審査を行っている。また、適宜人事委員会を開催し、規程に沿って適切に審査が行われている。	退職される博士後期課程論文指導担当者の補充を行う必要がある。	学部人事と併用して大学院博士後期課程論文指導担当者の人事を進めていく。	2024年3月	学部の人事委員長と事前大学院担当室について検討する。	委員会において承認	委員会において承認	博士後期課程論文指導担当者を1名、後期課程講義担当者を1名、前期課程講義担当を1名補充を行った。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
入試委員会	平川	B	年3回（学内選抜7月、A日程9月、B日程2月）の入試の運営と、入試の即日合否判定の委員会開催、年1回の修了判定の臨時で年3回開催し、適宜必要な議題について審議・報告が行われている。	入試（A日程、B日程）における新合否判定を採用、運用する。また、新たな選抜評価表の運用を開始する。博士前期課程での外国人入試には日本国籍の外国人、博士後期課程での一級修士（修士・博士課程）では日本国籍の外国人を志願者とする。B日程入試における志願者の委員の増強（A日程入試における志願者の委員と同日）および問題の準備提出日（A日程入試における問題提出日と同日）を一体化する。	入試の運営に関して研究科委員会に提案を提示する際には、入試委員会で作成した資料を添付・作成する。	2024年3月	入試の運営に関して研究科委員会に提案を提示する際には、入試委員会で作成した資料を添付・作成する。	委員会において承認	委員会において承認	入試委員会が検討する抜本的な改善事項はなく、研究科長、研究科事務から入試に基づき、立案作成および研究科委員会にて審議・報告後、実施できた。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
学生委員会	浜上							委員会において承認					同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
自己点検・評価委員会	中房	C	2022年度において研究科独自の自己点検・評価を実施できなかった。	大学基準協会から10月に公表予定の第4サイクルの大学基準に基づき自己点検・評価を実施する。	自己点検・評価シートを作成し、2シートに基づき自己点検・評価を実施する。	2024年1月	委員長が作成した原案に基づき、当委員会で開催する。	委員会において承認	委員会において承認	①自己点検・評価シートを作成した。②シートに基づいて自己点検・評価を実施した。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
広報委員会	白井	C	大学院生募集において、留学生や社会人の入学希望者が増加した。また、夜間開講や、スポーツ科学実践プログラムなど新しい取り組みに関する大学院の情報をHPに更新が必要である。	HP更新の内容の精査、予算の確保が必要である	HP更新の確保、情報収集と発信	2024年3月	委員長と事務局で、計画調整し、実施に努める	委員会において承認	委員会において承認	最低限の情報発信は、予定通り実施できた。次年度の課題を整理することができた。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	

(別紙2)

## 内部質保証シート（附置施設・委員会等用）

A	例年を上回る良い状況
B	通常の範囲内
C	要経過観察
D	改善を要する

### 2023年度の重点目標（学長／内部質保証推進委員会）

- ①第3期認証評価受審時の振り返りの中で、第6次中期計画と内部質保証システムの2つのPDCAサイクルが回っている状態であり、「内部質保証に関する取組」と「中期計画」とのPDCAの関連が見えにくいといった課題があった。  
**2023年度は中期経営計画と内部質保証に係る自己点検・評価のPDCAサイクル一体化し、中期経営計画の進捗状況を確認することで自己点検・評価を行う。**
- ②その他、各部局等において可及的速やかに処理しなければならない改善課題、外部評価委員会で指摘された改善課題、内部質保証に係る各種方針の実現、新規制度等の実効性や有効性の検証などの事項について、あらゆる課題を全てPDCAサイクルに乗せる必要はなく、重要性や年度内の解決可能性などを考慮して取り組むべき課題を適切に取捨選択するものとする。

		～5月末まで					6月 第3週	7月～翌年3月			翌年6月 第3週		
部局名	委員長議長	自己点検・評価 (Check)		改善計画・アクションプラン (Plan)			内部質保証推進組織による 所見または提言、助言、指示等	状況計画の取組状況 (Do)			取組状況の評価 (Check)		
		評価	概要	改善課題 (Action)	課題／改善目標	期 限		方法・手順	具体的な取組状況	取組の成果	進捗状況	内部質保証推進組織による所見	公表状況
体育学部教授会	三島	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
基本問題検討会議	三島	B	執行役会に役割が移行しているため、今後の委員会の見直しで廃止する方向である。	特になし				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
学科連絡会議	曽根(純)	B	通常業務を円滑に遂行した。	現行の体育学部スポーツ教育学科及び健康スポーツマネジメント学科の両学科の課題を抽出し、スポーツ科学部開設に向けた準備について検討する。	(1)TA/SAの基本方針作成、(2)オリエンテーション1年次全員参加構想、(3)コース選択及びスポーツ科学総論、また人数増加に伴う調整作業。上記内容についての具体的方針の決定。	R6年3月末	(1)大学設置基準に準じたTA/SAの方針策定について検討するように庶務部及び教育学部と検討(2)両学科での実施が可能か教授会で意見集約(3)コース長からの意見集約につとめ、カリキュラム委員会でスポーツ科学総論及び学生数増加に伴う人数調整を検討。	委員会において承認	(1)TA/SAについて庶務部と検討し、また研究科会議で意見を集約した。最終的に評議会で全学教務委員会にてTA/SAを決める事が承認された。(2)両学科実施の承認がなされ、各コースからの教員を募り準備中。(3)R6年度のコース振り分けは11月に完了した。	(1)TA/SA研修会が実施された。(2)R6年4月に初めて両学科での宿泊を伴ったオリエンテーションを実施する。(3)コース選択の円滑な振り分けがなされた。スポーツ科学総論はR6年実施し、学生数増加に伴う人数調整は継続中。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
自己点検・評価委員会	三島	B	全学自己点検・評価委員会に集約する予定のため、廃止する方向で見直しを進める予定である。	特になし				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

人事審査会議	三島	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
人事委員会	三島	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
予算委員会	三島	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
入試委員会	三島	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
カリキュラム委員会	三島	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教務委員会	藤原(敏)	B	大きな問題はなく運営されているが、解決していない継続審議となっている事項もある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実質的に審議できない項目が規定上、慣例的に審議項目として扱われている</li> <li>・近年増加傾向にある留学希望者の通年科目の履修方法について課題がある</li> <li>・1年次における15単位未習得者面談の対象者が多い</li> <li>・後期成績登録締切が遵守されないことで、卒業判定や教員免許申請のスケジュールを圧迫している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣例的な審議事項を精査し、会議の簡素化および効率化を図る。</li> <li>・通年科目の履修方法について、留学を特別の事情として扱う体制の構築</li> <li>・1年生の欠席調査および事後対応を改善し、15単位未習得者面談の対象者の減少を図る</li> <li>・後期成績登録締切の徹底</li> </ul>	2024年度内	各課題に対し、委員会で審議の上、具体的な改善策を教授会へ提案し、承認を得る。	委員会において承認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部長とも協力し、規定の改正も含めて、会議の簡素化、効率化に必要なプロセスを推進した。</li> <li>・通年科目の履修方法について、留学を特別の事情として扱う体制を検討した、</li> <li>・1年生の欠席調査および事後対応改善に具体的に取り組んだ。</li> <li>・後期成績登録締切の徹底に向けて、成績未登録者への具体的な対応を検討、実施した。</li> </ul>	完了	<p>計画が適切に完了したことを確認した。</p> <p>『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。</p>	

FD委員会	森田(啓)	B	「授業評価実施部会」と「教育研修実施部会」において活動を行った。またFD研修会を企画・実施した。	特になし				委員会において承認	教育研修実施部会：6月8日にFD研修会を実施した。答する形で実施した。 授業評価実施部会：前期の授業評価を5月15日～26日に実施し、フィードバックを6月5日～16日で行った。 テーマ「新任教員座談会」。新規に着任された先生方の質問に回体育学部FD委員会主催の研修会：2月29日に上月翔太氏（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）に講演を依頼した。テーマは「カリキュラム改革・検証の方法・事例について」	授業評価アンケートの実施依頼数：147コマ、実施数121コマ。実施率：82.3%。学生の回答率：47.5% 新任教員のFD研修会は、新規に着任された先生に好評であった。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教職課程委員会	小林	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
研究委員会	平川	B	規程に定められた管掌事項について、年間4回の委員会および4つの部会（紀要、在外研究、在外スポーツ、研究会）の開催と、必要な議題について、適宜、審議・報告が行われている。	研究活動の活性化、促進に関する課題を検討する。	1) 特別備品申請と科学研究費補助金の申請者との連結 2) 紀要に掲載されている編集規程・細則の加筆修正、および投稿の促進 3) 研究会の開催 4) 中期計画（2022-2026）研究委員会担当項目（教育研究組織の特色を活かした研究プロジェクトの検討、サバティカル制度（国内外）の積極的活用）の推進	1) から3) 2024年3月 4) 2027年3月	年4回程度の委員会開催、および各部会でのメール審議にて決議する	委員会において承認	1) 特別備品の採択者について、科学研究費補助金の申請者を優先する方針を決め、運用した 2) 紀要に掲載されている編集規程・細則の加筆修正を実施した 2) 原著3編、実践2編、資料3編、事例1編、その他3編（次号掲載、原著1編、資料1編、および投稿取り下げ原著1編を含む）の審査を実施した 3) 知的財産権に関して、外部講師を招聘し、研究会を実施した 4) 原案を検討している	1) 令和6年度予算申請において、条件どおり科研費申請者のみからの特別備品申請が実現し、外部資金獲得推進・インセンティブ付与に向けた足掛かりとなった 2) 実情に即した修正により、投稿者目線で規程内容がより明確化された。 博士論文を除く、単純な掲載本数ベースでは、3本の増加となった（実施された投稿促進策がございましたら、本欄か取組状況欄に追記ください） 3) 研究会参加者から1件発明相談があり、弁理士を交えた出願準備及び協力業者による商品開発の検討がスタートした 4) サバティカル制度に関連し、1名の内地留学者があったが、その促進策や研究プロジェクトについては、具体案の検討	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

(別紙2)

## 内部質保証シート（附置施設・委員会等用）

A	例年を上回る良い状況
B	通常の範囲内
C	要経過観察
D	改善を要する

### 2023年度の重点目標（学長／内部質保証推進委員会）

①第3期認証評価受審時の振り返りの中で、第6次中期計画と内部質保証システムの2つのPDCAサイクルが回っている状態であり、「内部質保証に関する取組」と「中期計画」とのPDCAの関連が見えにくいといった課題があった。

**2023年度は中期経営計画と内部質保証に係る自己点検・評価のPDCAサイクル一体化し、中期経営計画の進捗状況を確認することで自己点検・評価を行う。**

②その他、各部局等において可及的速やかに処理しなければならない改善課題、外部評価委員会で指摘された改善課題、内部質保証に係る各種方針の実現、新規制度等の実効性や有効性の検証などの事項について、あらゆる課題を全てPDCAサイクルに乗せる必要はなく、重要性や年度内の解決可能性などを考慮して取り組むべき課題を適切に取捨選択するものとする。

		～5月末まで					6月 第3週	7月～翌年3月			翌年6月 第3週			
部局名	委員長議長	自己点検・評価 (Check)		改善課題 (Action)	改善計画・アクションプラン (Plan)			内部質保証推進組織による 所見または提言、助言、指示等	状況計画の取組状況 (Do)			取組状況の評価 (Check)		
		評価	概括		課題/改善目標	期限	方法・手順		具体的な取組状況	取組の成果	進捗状況	内部質保証推進組織による所見	公表状況	
教育学部教授会	金子	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認					助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
自己点検・評価委員会	中川	B	教育学部の現状や課題についての情報の共有化	教育学部の現状や課題についての情報が、教員間で共有できるようにすること	教育学部の現状と課題を見出し、教員間で情報の共有を図ること	2024年3月	自己点検・評価委員会で検討し、自己点検・評価シートの作成を進める。	委員会において承認	自己点検・評価シートを作成し、教育学部としての総括を行った。	現状として、不十分と考えられる点について、教授会にて提案。現状や課題についての情報の共有を図ることができた。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
人事審査会議	金子	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認					助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
人事委員会	金子	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認					助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

予算委員会	金子	B	通常業務を円滑に遂行した。	特になし				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
入試委員会	金子	B	通常業務を円滑に遂行し、志願者増のための入試制度改革と募集活動を遂行した。	志願者減に歯止めをかけ、学部教育方針に合致した受験生を確保する。	指定校推薦枠の拡大や受験生のニーズに合わせた入試制度改革ならびに入試広報と学生募集活動の積極的な推進はかる。	2024年3月	過去の志願者や入学者の実績のある高校や依頼のある高校の指定校枠拡大を検討する。受験者の受験に配慮した受験科目の設定や入試日程を検討する。	委員会において承認	指定校枠の拡大をはかるとともに、該当者の評定平均値を引き下げた。また学校推薦型入試の受験科目を見直すことで、より受験しやすい入試制度に改定した。	総合型選抜ならびに指定校推薦、学校推薦の年内入試における志願者が大幅に増加し、年内で募集定員を超える入学予定者を確保した。さらに年明けの一般入試においても例年並みの志願者を確保したことで、ここ数年減少していた志願者が増加に転じた。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
カリキュラム委員会	金子	B	通常業務を円滑に遂行した。	幼児教育コースができたことで、DPの見直しの検討。2年次のコース選択をするにあたり、各コースの年次配当の在り方を検討する必要がある。	複数免許をスムーズに取得できるカリキュラムの在り方を考える。	2024年3月	各課題に対し、委員会で審議の上、具体的な改善策を教授会へ提案し、承認を得る。	委員会において承認	今後、2年次のコース選択をするにあたり、各コースの年次配当の在り方を検討し、複数免許をスムーズに取得できるカリキュラムの在り方を考える。		実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
教務委員会	竹内	B	通常業務を円滑に遂行した。	学生のゼミ配属について、学生の求めに落ち着いて対応できるようにする。例年より1か月準備期間を早めて行うことにより、後期授業期間終了前にゼミ配属がほぼ確定できるようにする。	希望通りのゼミに配属できなかった学生に対して、受け入れ可能ゼミの情報を伝えるとともに、必要に応じて個別に委員会で配属に向けてフォローする。	2024年2月	ガイダンス形式でゼミの特色を紹介するとともに、学生各自で面談等を通じてさらに知りたい情報を収集する。	委員会において承認	第1希望のゼミに配属できなかった者に対して、その他のゼミへ面談を促すとともに、必要に応じて委員が個別に対応した。	対象学生全員（保留者を含む）のゼミ配属が確定した。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
F D委員会	八木							委員会において承認 なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する				同委員会に対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

<p>教職課程委員会</p>	<p>藤原(彰)</p>	<p>B</p>	<p>通常業務の円滑な遂行と合わせて、教育学部としての教員採用試験対策の指導・支援体制の強化を図るため、今年度の4年生への面接、模擬授業等対策を体制化して進めるとともに、次年度以の2年生から4年生までの系統的な教員採用試験対策の授業科目化を行った。</p>	<p>教育学部としての教員採用試験対策の体制化</p>	<p>・今年度：教員採用試験の面接・模擬授業等への指導・支援体制の構築、実施 ・次年度以降：2年生から4年生までの教員採用試験対策の授業科目化</p>	<p>2024年3月</p>	<p>教育学部内に教員採用試験対策WGを設置する ・今年度、体制化した教員採用試験の面接、模擬授業等対策の指導・支援を実施する。 ・次年度以降に向けて教員採用試験対策科目の授業化の検討を行い実施案を作成、カリキュラム委員会、教授会へ提案し承認を得る。</p>	<p>委員会において承認</p>	<p>・今年度の教員採用試験の面接、模擬授業等対策の指導・支援を4月中旬から9月にかけてWGメンバーで月曜日から金曜日まで毎日実施した。 ・次年度以降の教員採用試験対策科目の授業化について、先進的に取り組みを行っている教員養成系大学の担当者に聞き取り調査も行いながら、本学の授業化案を作成した。</p>	<p>・今年度の教員採用試験は、実人数合格者が過去最高となった。 ・教員採用試験対策の授業化案が承認され、教職キャリア基礎Ⅰ・Ⅱ、教職キャリア研究Ⅰ・Ⅱとして来年度から（来年度入学生が2年次から）実施されることとなった。 授業化実施までの期間は、同教科内容を教育学部教員採用試験対策講座として実施することとなり、今年度は2月から3月にかけて、2年生・3年生を対象に対策講座を行った。</p>	<p>完了</p>	<p>計画が適切に完了したことを確認した。</p>	<p>『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。</p>
<p>研究委員会</p>	<p>加藤</p>	<p>B</p>	<p>投稿論文8本について査読を行った。外部査読者への依頼を含め適切に行われた。また、個人研究費の申請書の修正を行い、より適切な研究費の運用が行われるように務めた。</p>	<p>投稿論文数は程度確保されているが、論文種別の中では総説・研究論文・実践論文に該当する投稿が少ない傾向にある。</p>	<p>総説・研究論文・実践論文の投稿を啓蒙し、毎年2~3本は掲載できるようにする。</p>	<p>2023年5月31日</p>	<p>投稿を躊躇している教員の相談にのり、論文作成のための支援を行う。</p>	<p>委員会において承認</p>	<p>研究論文1本、その他、実践報告等の論文7本について査読を行い、掲載が決定された。発刊も予定通り行われる予定である。また、個人研究費の申請書の修正も3月中に行い、適切な研究費の運用に務める。</p>	<p>研究論文は数が1本だったものの、その他の論文は例年通りの投稿があり、引き続き活発な研究が行われている。</p>	<p>実施中</p>	<p>助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。</p>	<p>『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。</p>

(別紙2)

## 内部質保証シート（附置施設・委員会等用）

A	例年を上回る良い状況
B	通常の範囲内
C	要経過観察
D	改善を要する

**2023年度の重点目標（学長／内部質保証推進委員会）**

①第3期認証評価受審時の振り返りの中で、第6次中期計画と内部質保証システムの2つのPDCAサイクルが回っている状態であり、「内部質保証に関する取組」と「中期計画」とのPDCAの関連が見えにくいといった課題があった。  
**2023年度は中期経営計画と内部質保証に係る自己点検・評価のPDCAサイクル一体化し、中期経営計画の進捗状況を確認することで自己点検・評価を行う。**

②その他、各部局等において可及的速やかに処理しなければならない改善課題、外部評価委員会で指摘された改善課題、内部質保証に係る各種方針の実現、新規制度等の実効性や有効性の検証などの事項について、あらゆる課題を全てPDCAサイクルに乗せる必要はなく、重要性や年度内の解決可能性などを考慮して取り組むべき課題を適切に取捨選択するものとする。

		～5月末まで				6月 第3週	7月～翌年3月	翌年6月 第3週					
部局名	委員長議長	自己点検・評価 (Check)		改善計画・アクションプラン (Plan)			状況計画の取組状況 (Do)			取組状況の評価 (Check)			
		評価	概要	改善課題 (Action)	課題/改善目標	期限	方法・手順	内部質保証推進組織による所見または提言、助言、指示等	具体的な取組状況	取組の成果	進捗状況	内部質保証推進組織による所見	公表状況
情報処理センター	堤	B	学生持込PCを前提としたネットワークの構築（前年度からの継続）	学生持込PCを前提としたネットワークの構築（前年度からの継続）	大学教研ネットワーク入口の広帯域化・複数方式化、教室Wi-Fi収容数のより一層の拡充を行う。	2024年3月末	関連機器更新のための 1. 基本設計 2. 必要経費の算定 3. 予算申請 4. 一部機器・方式整備を実施する。	委員会において承認	大学教研ネットワーク入口の広帯域化および教室Wi-Fi収容数のより一層の拡大のための基本設計、必要経費の算定を実施し、特別予算申請を実施した（令和5年度第3回情報処理センター委員会）。本件については現在その申請予算の採否の決定待ちの段階である。また、有線LANの利用方式として、新たに認証LAN方式の導入を実施中だが（令和5年度第3回情報処理センター委員会）、これは大学教研ネットワーク入口の複数方式化に資する活動である。	1. 大学教研ネットワーク入口の広帯域化および教室Wi-Fi収容数のより一層の拡大のため特別予算申請を実施した。 2. 認証LAN方式による教研ネットワークの利用を、教室、A号館2階キャリア支援部、A号館3階ラーニングコモンズ、A号館4階図書館、A号館7階会議室で行えるよう現在準備を進めている。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
		B	学生持込PCを前提としたネットワークの設定見直しと機器配置	学生持込PCを前提とした電源環境・周辺機器の整備（新規課題）	老朽化した学生自由利用端末（オープン端末）の撤去を進めるとともに、学生持込PCのための電源・周辺機器を設置する。	2024年3月末	1. オープン端末のリース契約の解除を実施する。 2. 電源設備・周辺機器の手配を進める（本年度センター予算による） 3. オープン端末の撤去と共に電源・周辺機器設備の配備を授業への影響が極小になるよう配慮し完了させる。	委員会において承認	令和5年前期を以て、老朽化した学生自由利用端末のリースを終了し、その全てを撤去した。また、学生持込PCのための電源・周辺設備として、外部モニタ（電源供給・有線LANによる教研ネットワーク接続に対応したもの）および外部ドック（電源供給・有線LANによる教研ネットワーク接続に対応したもの）を設置した。	令和5年度後期より、A号館4階図書館とA号館2階キャリア支援部（旧学生利用端末設置箇所）にて、学生が持込PCを充電しながら教研ネットワークを利用できるようになった。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
		B	学生持込PCを前提とした印刷システムの構築	セキュリティの向上を目的とした認証要件・方式の改善（新規課題）	セキュリティ向上のため、パスワードの複雑さの要件についての見直しを実施する。また、他要素・パスワードレス認証などの導入を実施する。	2024年3月末	パスワードの複雑さの要件の見直しを令和7年度からの全面施行を前提として実施する。多要素・パスワードレス認証についてもできるかぎり早期の実施を目指し、仕様策定および予算申請を実施する。	委員会において承認	本件については、令和4年度第2回情報処理センター委員会での決定に基づき、パスワードレス認証の実現に向けた基本設計と必要経費の算定を実施し、次年度特別予算申請を情報処理センター委員会に提案した（令和5年度第3回情報処理センター委員会）。なお、パスワードの複雑さの要件についての見直しについても基本設計の実施と必要経費の算定を実施したが、必要経費が当初見込みを大幅に超えることが明らかとなった。本件については、センター長の指示により、パスワードレス認証と合わせて実施し、	パスワードの複雑さの要件の見直しとパスワードレス認証の実現のため、特別予算申請を実施した。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
スポーツ科学センター	菅生						委員会において承認  なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する				同センターに対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	

社会貢献センター	中山						委員会において承認 なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する				同センターに対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
学習支援室	長尾	C	当初予定とは別の教室も改修してラーニングcommonsを拡張する方向に計画を修正した。その結果、N号館2階に「ラーニングcommons×デジタルスポーツスクエア」を開設する準備を行った。	予算がつかなかったことで当初予定していた中央棟旧情報処理実習室Bのラーニングcommonsへの改修計画が実施できない。	改修計画を実現する。	2024年3月	予算獲得の方法を検討する。	委員会において承認	デジタルスポーツ論TFと協議を行い、旧情報処理実習室Bの既存の設備をデジタルスポーツ論のために使用することに合意した。また、その一方で、デジタルスポーツ論TFが計画を進めているN202, N203の改修に学習支援室関係者が意見を述べ、改修完了後の教室をラーニングcommonsとしても使用できる多用途施設とすることとし、その管理運営を引き受けた。	N202,N203を「ラーニングcommons×デジタルスポーツスクエア」として稼働するための準備が行われた。その一部として3月末までに壁と床の改修が完了した。	実施中	助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
国際交流センター	前島						委員会において承認 なお自己点検・評価及び改善計画について記入するよう依頼する					同センターに対して具体的な取組状況及び進捗状況の報告について、速やかな履行を要請する	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
図書館	前島	A	外国雑誌の該当タイトルの冊子体から電子ジャーナルへの切り替え（2024年更新時）	外国雑誌について、現在も多くのタイトルを冊子体で購読しているが、図書館外からのアクセス等、利便性向上等の観点からも電子ジャーナルへの切り替えを検討する必要がある。また、冊子体より電子ジャーナルの方が安価である場合が多いことから、外国雑誌価格の高騰と円安についての対策にも備えたい。	2024年1月更新の外国雑誌について、冊子体より電子ジャーナルの方が安価な場合は電子ジャーナルに切り替える。	2023年10月末	業者からの2024年1月更新の外国雑誌の冊子体と電子ジャーナル価格の見積もりにより、電子ジャーナルに切り替えるタイトルを抽出する。切り替えタイトルについて、図書館委員会の議を経て、電子ジャーナルにより更新する。	委員会において承認	10月18日開催の図書館委員会において、該当の外国雑誌（61点）を冊子体から電子ジャーナルへ切り替えることが承認された。	外国雑誌61点について、2024年1月からの更新時に、冊子体より電子ジャーナルに切り替えることで、利便性が向上した。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。